蒼井村正
挿絵／或千せねか
怪奇
呪詛喰らい師
カースイーター
立ち読み版

登場人物

雪村有佳
ゆきむら ゆか

咲妃のクラスメイト。淫神に取り憑かれたところを咲妃に救われて以来、レズ友達として愛しあっている。

岩倉信司
いわくら しんじ

都市伝説研究部の部長。様々な怪異を追っているうちに、淫神の事件に巻き込まれる。

稲神鮎子
いながみ あゆこ

学園の生徒会長。信司の幼馴染みで、いつも彼のことを気にかけている。

瑠那・イリュージア
るな・いりゅーじあ

霊を操る術を得意とする魔術結社「レメゲトン派」の生き残りの少女。春先に咲妃を襲撃したが、咲妃の仲間となった。

常磐城咲妃
ときわぎ さき

「呪詛喰らい師」という異名を持つ少女。幼いころから退魔士としての修業を積んでおり、淫神を自身の身体に封じる使命を帯びている。封じた淫神の力は使うことが可能。一般常識が少し欠けていて、バレ句や猥談が好き。

あらすじ

人の強い想いを糧とする半妖神――淫神を封じる使命を帯びた退魔士の常磐城咲妃。「呪詛喰らい師」の異名を持つ彼女は、呪印術と「ウズメ流神伽の戯」を駆使して淫神たちを鎮めていく傍らで、「淫ノ根」に取り憑かれた雪村有佳や、都市伝説研究部部長の岩倉信司、信司の幼馴染みで学園の生徒会長の稲神鮎子、さらには春先に襲撃してきた瑠那・イリュージアとの仲を深めていく。

そんな彼女たちに、術者集団「九未知会」のゼムリヤ・イリュージアが、ペットだった瑠那を奪還しようと、また、咲妃を己のペットにしようと襲い掛かってくる。

曲ツ神「水蠢」や淫神「疼女」を操り、責め立ててくる繰霊術師ゼムリヤに対し、豊満な身体を使って鎮め封印する咲妃だったが、ゼムリヤが拠点としているホテルに誘い出されたところでとうとう捕まってしまう。

ゼムリヤの過酷な責めについには堕ちる寸前にまで追い詰められる咲妃。しかし、そこに咲妃の残したアイテムでパワーアップした都市伝説研究部のメンバーが救助にやってくる。彼らの助けで形勢逆転した咲妃は、ゼムリヤを撃退する。だが、活動を活発化し始めた九未知会の脅威は残るのだった……。

「ふぁ、あ……あぁぁ、でっ、出るッ！　んきゅうぅぅぅンッ！　はぁぁぁぁん」
ぷしいっ！　ぴゅっ、ぷしゅっ、ぷちゅるるっ！
切羽詰まった声を上げた咲妃の乳先から、純白の乳汁が迸り、大ネズミの鼻先を濡らした。
キイイッ、キキキキッ！
迸る甘露の味に興奮した声を上げた大ネズミは、さらに激しく乳先にむしゃぶりつき、細く骨張った指で乳肉を揉みしだいて、異種の牝乳に容赦のない搾乳を仕掛ける。くすんだピンク色をした骨張った指が、量感たっぷりの乳肉に深々と沈み込み、母乳の源泉である乳腺葉を圧迫して、甘い体液のさらなる分泌を促す。
「ふわぁ！　あっ、アッあッ、ひぁぁう……いっ、ヒッ……きゅふぅぅぅンッ」
ジュルジュル、ジュパジュパという遠慮のない吸い音と、艶めかしく切なげな響きを増した咲妃の喘ぎ声が、コンクリート壁に反響した。
かつて、母乳を好む淫神「淫水蝶」によって開発された咲妃の乳腺は、性的快感に連動して、大量の母乳を分泌してしまうのだ。
（常磐城さんが……母乳を出した⁉）
想像を絶する事態の連続で、金縛り状態で動けぬ少年の頭はパニック寸前だ。
乳首を咥え込んで吸う大ネズミの口から、飲みきれぬ母乳がこぼれ落ち、たわわなバストの曲面を白くきらめかせながら流れ伝ってゆく。

「う……く……」

大ネズミに陵辱される少女を目の前にして、無力感に苛(さいな)まれ呻く信司であったが、その股間では、淫靡な悪夢のごとき光景に反応してしまったペニスが、意に反して勃起を始めていた。

「ギュギギッ、良キ匂イノスル乳汁ジャ。我ガ同胞ニ、存分ニ飲マセテヤレ」

耳障りな響きの男の声が、ネズミの巣に響き渡る。

（だっ、誰だ!?　誰か、他に人が居るのか？）

金縛り状態の少年は、わずかに動く視線を慌ただしく動かして、声の主を捜す。

巣穴の突き当たり、一段高くなった場所に、流木や粗大ゴミを積み上げて作られた玉座(ぎょくざ)のようなものがあった。

そこに、ひときわ大きく、でっぷりと太ったネズミがどっかりと腰を下ろし、嬲られる咲妃の痴態をじっと見つめている。

（デカい！　身体の大きさだけで二メートル以上あるんじゃないのか？　あれが、大ネズミたちのボス……まさか、あいつがしゃべったのか？）

もはやネズミとは思えぬその巨体の貫禄に圧倒されながら、都市伝説マニアの少年は思う。

「……ソコナ牡、コノ牝ノ同胞カ？」

モゾリ、と身じろぎしたボスネズミが、金属的で耳障りな声で問い掛けてきた。

（ネズミが……しゃべった⁉　あいつが淫神……⁉）

声に出せぬ信司の思いを読み取ったかのように、巨大ネズミの王が人間のような仕草で頷いた。

「左様。我ガ名ハ呪鼠……人ニ虐ゲラレし数十万のネズミの霊ガ集いて神格ヲ宿セシ者ナリ。ソコナ女、神伽ノ巫女ト名乗リテ、我ニ伽ヲ申し出テキた。ヨッテ、露払イトシテ、我ノ同胞ドモノ無聊ヲ慰メさせテおル」

呪鼠と名乗ったネズミ型の淫神は、でっぷりと太った身体を揺らしながら、威風堂々の口調で宣言する。

「呪鼠様ぁ、やっ、約束通り、こ奴らの相手をすれば、御前様に伽を……はううんっ！んはぁぁんッ」

左右の乳首を容赦なく吸いしゃぶられ、荒々しく搾乳される快感に悶えながらも、咲妃は艶めかしく震える声で神伽を申し出る。

「神名ニ懸ケテ約定は違エヌ。ソレ、モット乳ヲ出シテ、我ガ同胞ヲ悦バセヨ！　我ニ伽スルノハソノ後ジャ！」

巨大ネズミ型の淫神は、ジュジュジュジュッ！　とくぐもった鳴き声を上げた。

その声を合図として、周囲で見物していた何百という小ネズミたちが、咲妃の肉体に一斉に群がる。

「ふぁ！　ンンンンッ‼」

白い裸身が、押し寄せる小動物の群れに呑み込まれて見えなくなるのを、身動き一つできぬ信司は呆然と見つめることしかできなかった。

大ネズミの搾乳責めに翻弄されながら、常磐城咲妃は、かすかな焦りをおぼえていた。

（こ奴らは、呪鼠の神気を受けて巨大化しただけの、ただの獣。一刻も早く、こんな戯れ事を切り上げ、淫神に神伽を仕掛けなければ……）

そう思ってはみるものの、吸引された乳首の芯を、乳汁が駆け抜け迸るむず痒い快感が、豊乳のみならず、全身を熱く火照り疼かせてしまう。

（あぁ、身体中が……舐められて……まさぐられて……舌のざらつきが……肌を……くうう！）

全身を包み込んでせわしなく動き回る小ネズミたちの獣毛が、搾乳快感によって鋭敏化した柔肌をサワサワとくすぐり、身体中に這わされる小さな舌の感触が性感をさらに上昇させてゆく。

食欲混じりの獣欲に突き動かされた小動物どもの愛撫は、全身くまなく施されていた。

特に発汗量の多い部分には、より多数のネズミたちが群がり、甘い発情臭を放つ汗粒を舐め取って、チィチィと甲高い歓喜の声を上げている。

「きゅふんんっ！　脇ッ……ひぁ、あんッ！　ふぁ……く……んはぁぁう！」

脇の下を何枚もの舌が這うくすぐったさに堪りかねて脇を締めようとしても、左右から

母乳を吸いしゃぶっている大ネズミたちが手首をガッチリと掴んで、動きを封じられてしまう。搾乳を受け続けている乳房の谷間には、母乳の甘い匂いに引き寄せられた小ネズミどもが先を争って潜り込んできて、乳球の曲面を伝い流れてくる甘露をピチャピチャと舐め取っている。

腹筋の凹凸をうっすらと浮かばせた腹部にも、何匹ものネズミが乗って、引き締まった素肌を甘噛みし、へその窪みに鼻先を突っ込んで、小さな舌を閃かせる。

「ひぅ！　んっ、あひっ、ふううっ、くふぁ、はぁんっ！」

敏感に反応して波打つ腹の上から振り落とされまいとする小ネズミたちが、柔肌に爪を突き立てる鋭い痛みでさえ、今の咲妃にとってはマゾ的な快感の電流と化して、肉体の火照りと疼きを強めていた。

小ネズミの群れは、ありとあらゆる種類の刺激を女体に与える生きた責め具と化して、神伽の巫女をよがり悶えさせる。

（あぁ……ッ！　こんなところまで……かっ、感じるなんて……奥まで……舐められて……はぁぁぁ）

へそ穴の奥にまで差し込まれ、せわしなく這い回る小さな舌がもたらすくすぐったい感触は、内臓や腹膜までわななかせ、挿入阻止の結界に守られた無垢の膣壁を妖しく収縮させる。

熱した蜂蜜をたっぷりと含ませたスポンジのように充血した膣粘膜が、狂おしいほどに

蠢き捩れて、女悦の証である甘酸っぱい蜜液をジュワッ、と分泌させた。
（くっ、んんっ！　漏れ……るッ！）
いまだに何者の侵入も許したことのない膣道を灼熱させて、熱い愛液が下り落ちてくる感触に、呪詛喰らい師（カースイーター）の美貌が歪む。無意識のうちに腰が浮き上がり、淫熱を帯びて潤んだ秘部がせり上げられて、革帯を食い込ませた秘部を強調してしまう。
キュキキキッ！
股間や内腿部分を執拗に舐め嬲っていた大ネズミが匂いの変化を嗅ぎつけた。
チッチッチッチッ！
興奮した大ネズミは小刻みに舌打ちするような鳴き声を上げながら、秘裂を隠した革帯に指を掛けて、グイグイと引っ張り上げる。
「くぁ、ひぅ……あっ、ふぁあんッ！」
疼き始めている性器をエロチックな退魔装束に圧迫され、咲妃の声が甘く裏返る。
革帯越しに散々舐め回され、揉み弄られて充血を強要された大陰唇が、細く引き絞られた革帯をパックリと咥え込み、膣前庭にまで食い込んで、秘裂の疼きをさらに加速した。
「はぁあぁ、引っ張るなぁ……あ、あ、あぁぁ……ッ！」
せり上げられた咲妃の下半身が、ビクッ、ビクビクンッ、と敏感な痙攣を起こす。
桜色に上気した、ツルリと滑らかな大陰唇を割り開いて食い込んだ革帯の脇から、愛液がきらめき溢れてくるのが、信司の目にもはっきりと見て取れた。

「う……やめ……ろ……こんなの、酷すぎ……るッ！」
咲妃の痴態をこれ以上見まいとする信司であったが、目を閉じたり視線を逸らすことができない。
「ギュフフッ、お主、モット近ウ寄レ、ソノ牝ガ辱メラレ、淫ラニ堕チル姿ヲ、間近デ見テヤルガイイ」
信司の困惑に嗜虐心を煽られた淫神が、邪悪な響きを帯びた声で命じる。
「う、こ、こと……断るッ！　……く……うぅぅ……ッ！」
抗おうとする意思を裏切って身体が勝手に動き、ネズミの群れに陵辱されている咲妃の傍らまで歩み寄ってしまう。なすすべもない少年は、M字開脚を強要された咲妃の股間を覗き込むような位置に膝を突いた。
ヘッドランプの明りが、革帯緊縛された極上の肢体を白く照り輝かせ、強まった光に驚いた小ネズミたちが一斉に鳴き騒ぐ。
「呪鼠様、こっ、このようなお戯れなどせず、何とぞ、御身に私の伽をお受けくださいませ！」
左右の乳首を大ネズミに吸いしゃぶられ、全身を小ネズミどもに嬲られながらも、咲妃は甘くかすれた声で、神伽の戯を願い出る。
「マダジャ！　マダ、我ノ同胞ハ満タサレテオラヌ！　モット恥ジラエ！　乱レヨ！　我ラト同ジ、畜生道ニマデ堕チヨ！　ジュジュジュギッ！」

チチチィッ！

王の命を受けた大ネズミは、意外なほどの腕力を見せて股間の革帯をさらに引き上げ、咲妃の下半身を高く吊り上げてゆく。

「くぁ、あぁぁぁ……ッ！」

ネズミの唾液に濡れて密着した薄皮越しに、プックリとしこり勃ったクリトリスのポッチまでも浮き出させて、肉感的な下半身がブリッジでもするかのような体勢で宙吊りになる。M字開脚状態で、かろうじて接地している両脚のつま先と、強張った太腿がわななき震えた。

チチチッ、チュイイッ！

争奪戦にあぶれて順番待ちをしていた小ネズミたちが、小さな身体を伸び上がらせて、浮き上がった尻たぶや汗ばんだ背中を舐め回し、緊張した美脚を這い上って太腿にしがみつく。熱く火照った咲妃の裸身に群がった小ネズミたちは、小刻みに腰を振り始めた。股間から突き出た、プリッ、と生硬いネズミのペニスが、汗と獣の唾液にぬめった柔肌のそこかしこに擦り付けられる。

「ひぁぁう、んっ、身体中……あっ、ヒッ、んはぁぁんッ」

艶めかしくかすれた声を上げる咲妃の全身で、小動物たちの自慰行為はさらにヒートアップしてゆく。

発情したネズミどもには、女体に快感を与えて悦ばせようなどという思惑（おもわく）など微塵もな

い。ただひたすらに、込み上げてくる己の欲望を解消するためだけに、神伽の巫女の極上裸身を嗅ぎ、溢れ出す体液を舐め回し、怒張を擦り付けて獣の精液をぶちまけるだけだ。

「ひぅ……んっ、やっ、んっ、はぁぁンッ！」

感度を増した全身を、淫熱を帯びた小動物のペニスで嬲られた咲妃は、焦げ茶色の毛皮に覆い尽くされた半宙吊りの肢体を艶めかしくくねらせてよがり悶える。

きめ細かな素肌は、身体の内側から込み上げてくる淫熱と、ネズミどもの体温で汗に濡れまみれ、それが潤滑油代わりとなって、擦り付けられる何十もの小ペニスに快感を与えていた。

チュチュチュチュチュチュチュッ！

摩擦快感に感極まった小ネズミどもが、一斉に耳障りな声を上げて身を震わせた。

びゅくんっ！　ぴゅくぴゅくぶびゅるっ！　ぴゅっ、ぴゅるっ、ぷちゅるっ、びゅびゅびゅびゅ、びゅるっ！

何十、何百もの牡突起が制御不能の脈動を起こし、熱い子種汁で呪詛喰らい師（カースイーター）の素肌を穢し抜いてゆく。

「くはぁぁんっ！　あっ、ふぁ、んあぁぁぁ……ンッ！」

全身に感じる無数の脈動と、吐き出される獣液の熱さが、妖しい快感となって咲妃のボンデージ裸身を包み込む。獣のエクスタシーに身体を震わせていた小ネズミどもが離れると、咲妃の色白な肌には、小さな精液の塊が無数にこびりついていた。

「やっと前戯終了。ずいぶん長くかかったわね。第一段階、完了したわよ♪」
陵辱の一部始終をどこかで見守っていたらしいドクタークリアが、背後のふすまに向かって呼びかけると、程なくして久遠が入室してきた。
「ハァハァハァ……。くっ、久遠……ッ！」
輝く身体の内から込み上げてくる欲情に身を炙られながら、咲妃は先代の巫女に呼びかける。
「咲妃、ようやく一つになれますね」
ベッドの傍らまでやって来た神産みの巫女は、天女を思わせる衣装をスルリと脱ぎ捨て、メリハリの利いた裸身をあらわにした。
咲妃と同じ金色の神気に包まれた女体の股間からは、見事な男根が屹立している。
「う……ぁ……」
美女の勃起を見つめる呪詛喰らい師（カースイーター）の喉が、ゴクリ、と鳴り、子宮が痛いほどに収縮した。
「ドクター、この部屋を最大強度の時空結界で封鎖します。人払いを……」
「了解したわ。……はいはい、役目の終わった人たちはさっさと出ていく！」
「ちょっとぉ、そんなに邪険にしないでよぉ」
「やれやれ、私たちはただの当て馬か……」
フタナリ美女たちを追い立ててドクターが退室し、二人の巫女だけが残された。

「ずいぶん可愛がってもらったようですね。まずはあなたの身と、寝所を清めましょう」
何かをすくい上げるような形で掲げられた久遠の手から、透明な水が蕩々と湧き出し、流れ落ちる。床に弾けた水は、スライム状に変化して蠢き、ベッドで脱力している咲妃の身体を包み込んだ。
「あ、んぐぅ⁉　うぐ……んむぅ、ゴポッ！」
口や肛門から体内に侵入した水スライムは、たっぷりと飲まされた精液や、陵辱による汚れを残らず洗い落としてゆく。
「ハァハァハァ……うぁ、あぁぁぁんッ！　なっ、何だ⁉　あぁぁ、出て来るッ！　んんんッ！　やはぁぁぁん！」
恥悦の声を漏らして背を丸める咲妃の肛門から、体内浄化を終えた水スライムがぶちゅっ、じゅぷるるるっ、と恥ずかしい音を立てながら排泄され、ベッドを清めていた粘体と合流して、いずこかへ流れ去った。
「ふふふっ、浄化、完了ですね」
見違えるように清められた咲妃と寝所を見回し、久遠は艶然と微笑む。
「咲妃、あなたと契り、神気を練り込んだ精によって受聖させることで、神産みの戯、その第一段階は成し遂げられます」
繊細な指先で股間の肉槍を愛でるように撫でながら告げた九未知会の盟主は、ベッドに這い上がり、伴侶と決めた美少女に迫る。

「まっ、待てッ！　その前に話を……お前と話をしたいんだッ！　私は、お前をこの世界から救いたい！」
「救う？　それは無理なお話ですね」
久遠の目に、わずかな怒りを含んだ悲哀の光がきらめく。
「私は、幾多の神体をこの身に宿し、奇跡としか思えぬ現象を起こすことができます。このように、世界そのものを構築することさえ可能なのです」
荘厳な雰囲気に満ちた寝所内を見回しながら、神産みの巫女は告げる。
「物理現象を操り、時の流れにさえも干渉する……そんな私の力をもってしても、過ぎ去りし時を巻き戻し、災厄を逃れることができなかったのです！」
咲妃を見つめる金色の瞳には、悔恨の涙が浮かんでいた。
「咲妃、あなたには判りますか？　力ある者の絶望が、いかほどに深いのか……」
「正直に言おう。私には判らない。なぜなら、絶望したことがないからな」
思うように動けぬ身体をベッドに横たわらせたまま、呪詛喰らい師（カースイーター）は答える。
「羨ましいお返事ですね。お話の続きは、交わりながらいたしましょう」
肉感的な美女の身体がのしかかってきて、神気に輝く勇根の先端が、未開の秘裂にジワジワと迫ってくる。
「いっ、嫌……だ。それだけはッ！　何か他の方法が……もっと、話を！　やっ、嫌ぁぁッ！」

これまで幾多の淫神を封じてきた神伽の巫女とは思えぬ、余裕の欠片もない取り乱しようであった。

（ここだけは……処女だけは守らねば……！）

必死に抵抗する咲妃の脳裏に浮かぶのは、物心ついた時から幾度も言い聞かせられた言葉。

『神伽の巫女は、曲ツ神の神体をその身に取り込み、成就の暁（あかつき）に、純粋な神気を天へと還（かえ）すのが使命。浄化された神気のひもろぎとなる子宮は、その時が来るまで、何があろうと無垢のままで守り通さねばならぬ！』

それは、神伽の巫女として生を受けた咲妃にとって、絶対遵守せねばならぬ決まり事であった。

「往生際が悪いですよ。フフッ、もう、こんなに濡れているではありませんか。本当は、この奥に欲しいのでしょう？」

幼子のようにむずかり抗う咲妃の膝裏に手を添え、破瓜の恐怖に震える美脚をグイッ！と持ち上げた久遠は、金色の燐光に包まれて、茜色に濡れ咲いた秘裂を惚れ惚れと見つめる。

「嫌……嫌だ。くふうぅぅ……んんんッ！」

拒絶しようとする心とは裏腹に、焦らし抜かれた身体はあからさまな欲情を見せつけていた。

せり上げられた下半身が、恥悦の炎に炙られて艶めかしく左右にくねり、洗い清められたアヌスも、卑猥に収縮して、疼きの解放をねだる。

くちゅ、くちゅ、くちゅ、ちゅぷるっ……。

触れられてもいない秘裂が、小さな蜜鳴りの音を立てて蠢く音が聞こえて、呪詛喰らい師(カースイーター)の羞恥を煽る。挿入を待ちきれぬ膣口が、制御不能の脈動を起こして空気を咀嚼しているのだ。

「私も、この瞬間を迎えるために、いくつもの段階を経てきたのです。頼るべき人を失い、一人彷徨(さまよ)っていた瑠那をあなたの住む街へと誘(いざな)い、九未知会の人たちを動かして幾多の試練を課し、呪鼠を送って挿入阻止の結界を破らせた……」

「全てはお前の謀(はかりごと)だったというのか⁉」

目を見開いて驚愕する咲妃を、金色の瞳に映しながら頷く久遠。

「その試練を見事に乗り越えたあなたは、想像よりもずっと早く、私の伴侶となる資格を得ました」

怯え、震える呪詛喰らい師(カースイーター)の頬を撫でながら、神産みの巫女は慈愛に満ちた笑みを浮かべる。

「では、あなたの処女、破らせていただきます」

ウエストのくびれをしっかりと捕まえた久遠は、一気に腰を突き挿れ、神伽の巫女が守り抜いてきた最後の帳(とばり)を貫きにかかった。

濡れ開いた小陰唇を、神気に輝く亀頭が割り開き、膣口が、ジワリ、と圧迫される。
ぬぷ……くちゅ……。未踏の秘め穴にめり込んだ穂先が、処女の証に触れ、引きつるような痛みが恥骨の裏側を走り抜ける。
「嫌だ嫌だ嫌だ嫌だあぁぁぁぁあ～ッ!!　やめろっ！　止めてくれッ！　私は神伽の巫女としての使命を成就したいんだ！　だから……ッ！」
パニックに陥った咲妃は、注射を嫌がる幼子（おさなご）のように叫び、手足をバタつかせて暴れ狂う。
「取り乱しすぎですよ。少しお淑（しと）やかになさい」
子供を叱るような口調で言った久遠の指が額に触れ、咲妃の肉体を金縛りにして抵抗を封じた。
「う……く……や、やめ……て……」
涙目になって訴える咲妃は、破瓜に怯えるか弱い少女でしかない。
「心配いりません。あなたは神伽の巫女のさらに上の階梯へと進むのです。私と同じ、神産みの巫女という存在となって……」
慈愛に満ちた微笑みを浮かべ、九未知会の盟主は呪詛喰らい師（カースイーター）のヴァギナを貫いた。
膣奥で、張力の限界に達した薄膜がプツリ！　と裂け、輝く肉刀が処女膣に深々と挿入を果たす。
「つぁ！　あああああああああぁぁぁ～ンッ!!」

処女膜が引き裂かれる鋭い痛みに叫び、仰け反った退魔少女の目尻から、きらめく涙が頬を伝う。

（奪われた……これが本当の……破瓜！）

電脳空間で、膣への挿入を仮想体験していた咲妃であったが、現実に体験する処女喪失は、想像を絶する衝撃と激痛で咲妃の心を打ちのめした。

全身の筋肉が強張り、全ての感覚が引き裂かれた薄膜に収束されて、喪失の痛みを増幅させる。

「しばらくこのまま愛し合いましょう……」

優しい口調で告げた久遠は、苦痛に歪む咲妃の顔に唇を寄せ、そっとキスしてくる。

「んふ……んっ、ちゅッ……くふぅぅむ」

下腹の奥から伝わってくる鈍痛を忘れようと、呪詛喰らい師（カースイーター）は甘く温かな唾液をすすり飲み、トロリと柔らかな舌を吸いしゃぶって、巫女同士のディープキスに没頭する。

（ダメ……だ。愛撫に、抵抗、できない……）

ミュスカの男根によって過剰なまでに感度を上げられた口腔粘膜を優しく舐め回され、吸い上げられる心地好さに、咲妃の理性は蕩けてゆく。

「あふ、んむ……くちゅ、くちゅ、ちゅぱ……」

久遠も積極的に舌を使い、ウズメ流の技巧を極めた二枚の柔肉が、互いの口腔内を行き来して味覚器官同士の濃厚な絡み合いを堪能する。濡れた朱唇から突き出された舌先が宙

で戯れ、まるでフェラチオ奉仕でもするかのように交互に吸い合う。
巧みな愛撫を受けた味覚器官は、狂おしいほどの快感に包まれ、シロップのように甘い唾液を大量に分泌させて口腔を満たす。
咲妃と久遠、二人の美少女の喉が、交互に、ゴクリ、ゴクリと鳴って、溢れ出しそうな甘露を呑み込み、官能を高めてしなやかな肢体を悩ましげにくねらせた。
破瓜直後のヴァギナを貫き、奥まで侵入した肉刀は、そのまま動かず、押しつけ合ってひしゃげた豊乳は、互いの心音を伝えながら、密着状態を維持している。
「んふぅ……そろそろ、いいですね？」
数分が経過し、鈍痛が治まってきたのを見計らったかのように、緩やかな抽挿が開始された。
丸く割り開かれた秘裂の奥から、神気に輝く勇根がゆるゆると抜き出され、亀頭が抜け落ちる寸前で、再び沈み込んでくる。
「ひぁ！　はぁぁう、あ、ひあぁぁぁんッ！」
これまで味わってきた肉悦が、ただの戯れにしか思えぬほどの超絶快感が、摩擦される膣粘膜から沸き起こって、処女を奪われたばかりの呪詛喰らい（カースイーター）師は一気に絶頂を極めてしまう。
「これからあなたに問いを発します。思いつくままに答えてください」
豊乳同士を互いを押し潰さんばかりに密着させ、全身をうねらせて腰を使いながら、久

遠が語りかけてくる。
「んっ、ふぁ、あんッ！　問い、だと⁉」
「お話、したかったのでしょう？　最初の問いです。あなたは、何のために神伽をするのですか？」
「そっ、それは……くあぁんっ！」
答えを思いつく前に子宮口が突き上げられ、甘い衝撃で咲妃の意識を白く染め上げた。
「フフッ、奥の方を軽く突いてあげただけで、この反応。可愛いですよ、咲妃」
「うぁ、あんっ！　ひっ、あっ、アッ、そこッ、響くッ！　ひゃう！　んっ、はっ、ひうぅ……やっ、はあぁぁん！」
巨大なベッドの上で、二人の美少女が睦み合う。
常磐城咲妃と、常磐城久遠。いずれも、神伽の巫女として幾多の淫神、亜神をその身に封じてきた退魔少女であった。
甲乙付けがたい絶妙のプロポーションを誇る二人の裸身は、肉体の内部から湧き出てくる淡い金色の光に包まれ、艶めかしく照り輝いている。
ムッチリと肉感的な太腿が肌ずれの音を立てて擦れ、張りと柔らかさを併せ持った豊乳が、互いの弾力を比べ合うかのように押しつけ、ひしゃげ、揺れたわみ、勃起乳首を肉果の奥に押し込んで濃密に睦み合う。
「ンッ、あはぁ、気持ち……いい……あなたの中、本当に心地いいですよ、咲妃……」

「ふぁ、はい……鮎子様……あふ、ちゅっ、ちゅぷっ、ぴちゃ、ぴちゃ、ぴちゃ……」
尿口にキスし、優しく吸い上げた咲妃は、熱く柔らかな舌をくねらせて、性器全体に奉仕する。
「ひうぅぅッ！　もっと、もっと舐めなさいッ！　そっ、そうよ……もっと激しくッ！　吸って、舌を使いながら吸うのよッ!!　んきゅうぅンッ、あっ、イッ、イク……イクわぁッ！　あはぁぁうぅぅん……ッ！」
丹念なクンニ奉仕を受けた鮎子は、ビザールルックの肢体を仰け反らせ、絶頂痙攣を起こした。
咲妃の顔を挟み込んだ太腿が歓喜に震え、口に押しつけられた秘裂が卑猥な収縮を起こしながら、濃い愛液を溢れ出させる。
「んふぅ！　ンクッ……ごくっ、ごくっ、こくんっ……」
エクスタシーを迎えた生徒会長の膣口から吸い出された黒煙状の淫神を、咲妃は残らず吸い取り、呑み込んでゆく。
（鮎子……私の言動や行動が、こんなにもお前を傷つけていたなんて。すまなかった）
淫神に凝縮された感情の洪水を受け止め、咲妃は猛省している。
「神伽の巫女は、あらゆる人を魅了する色香を放ちます。あなたの軽はずみな行動は、周囲の人々に深い因果の種を撒くことになるのですよ」
久遠の声が聞こえると同時に、顔面騎乗したまま失神していた鮎子の身体が、見えない

力でフワリ、と釣り上げられ、五芒結界の縁に運ばれる。
「ハァハァハァハァ……常磐城さん……オレ、もう、ガマンの限界ッ！」
発情した獣のように鼻息を荒らげて、岩倉信司が歩み寄ってきた。嬲られる咲妃の痴態を見せつけられ、いったい何度暴発させたのか、制服の股間に精液の濡れ染みが拡がっている。
「う……信司……お前にも……？」
恥液まみれの身体を起こし、哀しげに告げた呪詛喰らい師（カースイーター）の眼前で、少年の身体が変貌を始める。
ビリッ……ビキイイイッ！
制服のズボンを引き裂きながら、肉色をした触手が何十本も飛び出し、蛇のようにくねりながら咲妃に向かって殺到してきた。
「くぁ！　信司ッ！　まさか、亜神化⁉　んくうぅぅ〜ンッ‼」
身悶えるボンデージボディに絡みつき、拘束した触手の先端は、ペニスそのものの形状をしている。
長大な肉茎には太い血管が蔦（つた）のように浮き出し、プックリと張り詰めた亀頭に走る鈴口のワレメからは、うっすらと白濁した先走りのエキスが糸を引いて滴り落ちていた。
「くはぁ……アッ……ふぁ、あん……ッ」
全身に熱く猛ったペニスを絡みつかせた咲妃は、艶めかしい喘ぎを漏らし、表情をだら

しなく緩ませる。
延々と陵辱を受け続けてきた肉体は、狂おしいほどに感度を増し、神伽の巫女として鍛え抜かれてきた強靱な精神も、たて続けに受けた精神的ショックによって揺らぎ始めているのだ。
「常磐城さん、キミは酷い人だ」
下半身を無数のペニス状触手と化した信司が、緊縛された咲妃に迫ってくる。
「な、何……!? ふぁ……あんッ！」
「何度もオレに術をかけて、記憶を弄ったじゃないか！ ……そんなにオレが信用できなかったのか？」
「そっ、それは……お前のことを思って……くはぁんッ！」
呪印使いの少女は、精液にぬめった爆乳をギチギチと締め上げられ、言い訳の言葉を中断して仰け反ってしまう。
ぷしいいっ！ ぷちゅるるるっ！
プックリと尖り勃った勃起乳頭が、純白の乳汁を射出して、信司の顔を濡らした。
「常磐城さん……いや、咲妃……オレ、キミのこと犯すよ。他のみんなに姦らせたんだから、オレだって！ オレがキミのこと好きだったの、知ってるだろ!?」
唇まで垂れてきた親友の母乳を、ペロリと舐め取った少年は、触手ペニスを駆使して魅惑的な肉体を嬲り始める。

ぬちゅ、ぬちゅ、ぬちゅ、じゅぷ、ぬちゅるっ……くちゅッ……。
先走り汁の鳴る淫音を立てながら、何十もの亀頭が呪詛喰らい師（カースイーター）の滑らかな肌に擦り付けられた。
「あはぁ、常磐城さんの……咲妃の肌、どこもかしこもスベスベで気持ちいいッ！」
ボリューム過剰な爆乳の柔肉に、餌に群がるウナギの群れのように多数の亀頭が集束し、マシュマロのような弾力を秘めた乳肌を全方位から突き嬲る。
圧迫された乳房から迸る母乳と、大量に塗りつけられる先走りが混ぜ合わされた粘液が触手の動きで泡立てられ、ヌチャヌチャと淫音を鳴らす。
「きゃふうぅぅ！　やぁぁ、乳首ッ、出るッ！　あぁぁんッ！」
「咲妃は感じると、母乳が出るんだよね？　あぁ、プリプリの乳首の感触、気持ちいいよ……チンポの中に熱い母乳が入ってくる！」
スケベったらしい笑みを浮かべた信司は、爆乳の根本を締め上げながら、乳首を集中的に責め立てた。
パクッ、と、口のように開いた鈴口が射乳の止まらぬ勃起乳頭を咥え込み、左右に捩れながら吸い上げてくる。
亜神のペニスならではの、生体機能を無視した母乳吸引であった。
「咲妃の身体、自分の精液と鮎ねえのオシッコでグチャグチャじゃないか。今度は、オレのチンポ汁を塗り込んでやるよ」

胸に負けず量感豊かな尻、ムッチリと肉感的な太腿、芸術的なくびれを形成した腹部、辱悦にしかめられた凛々しい美貌、ありとあらゆる部位にペニスが這い回る。
「ふぁ……はぁぁぁ……やっ、んぁ、そんなトコまでぇ……やはぁぁんッ！」
触手の執拗な愛撫は、フタナリペニスにまで施されていた。
ぬちゅ……ぷちゅ……ぐりゅっ、ぎちゅっ……ぬちゅるっ……。
「うひぁぁぁ！　らめぇ、そんなに擦ったら、痺れる……ッ！　んぁ、あひぃぃぃンッ！」
敏感きわまりない少女の勃起に巻き付き扱き上げる男根触手は、はち切れんばかりに充血した咲妃の亀頭を三本がかりで擦り嬲る。
四つの亀頭が互いの先走りを混ぜ合わせながら絡み、擦れ会い、生硬い海綿体組織を鈴口にグリグリと押しつけて、同時絶頂に向かって昂ってゆく。
「くうわぁぁぁぁ！　出るッ、セーエキ……出るうぅぅッ!!」
既に射精をガマンできなくなっている淫ノ根は、執拗なペニス同士の戯れに屈し、ひときわ硬く張り詰めて制御不能の脈動を開始してしまう。
「しゃ、射精するんだね、咲妃！　オッ、オレも……出るよッ！」
早漏少年は、少女の射精にタイミングを合わせ、全てのペニスを弾けさせた。
どぷどぷどぷずびゅるうううううう～ッ！　びちゃぁ、びしゃびしゃびしゃびゅるうううっ！　びゅくっ、ぶじゅるるっ、どぴゅどぷどばぁぁぁぁ～ッ!!

甘美な脈動を起こした淫ノ根が神気に白く輝く精液を噴き上げると同時に、全身を嬲っていたペニス触手が一斉に白濁液を噴出する。
声なき悲鳴を上げて痙攣する呪詛喰らい師の全身が一瞬にして白濁液に覆い尽くされ、息もつけぬ濁汁の集中砲火を浴びた。
「んぁぁぁ！　んぷうぅ……んっ、んぐむうぅぅ！」
怒濤の勢いで浴びせかけられるスペルマシャワーに喘いでいた咲妃の口に、射精中の触手が突き入れられ、大量の白濁液を注ぎ込む。
青臭く生々しい親友の精液が、舌と口腔粘膜にコッテリと粘り着き、男の味を染み込ませながら、喉奥へとなだれ込んでゆく。
仰け反った細い喉が、ゴクリ、ゴクリと艶めかしく動き、際限なく射出される少年の絶頂エキスを飲み込んだ。
「あぁぁ、咲妃がオレのザーメン飲んでる！　こっ、今度はこっちのチンポをヴァギナに挿れてあげるよッ！」
肉縄に緊縛された身体が、信司の股間でそそり勃っているオリジナルの男根に引き寄せられ、濡れ開いた膣口を一気に奪われる。
「んぁ！　んむふうぅぅ……ゴホッ！」
突然の挿入に、大きく目を見開いて身を強張らせた咲妃のヴァギナが、童貞ペニスをきつく締め付け、淫靡な蠢きで歓迎してしまう。

「こっ、これが女の子の……咲妃のオマ〇コの中……熱くって、ドクドク震えて、きっ、気持ちいいッ！　うううぅ……でっ、出るッ！」

びゅくびゅくんっ！　どぷううっ、びゅるうぅぅぅっ、ずびゅるるるうぅぅ～ッ‼

劣情を抱いていた少女の膣内で、歓喜の極みに達した早漏ペニスが脈動を開始する。

（しっ、信司！　いきなり中に⁉　あぁぁ、信司の精液が……熱いッ！　私……信司に犯されて……セックス、してるッ⁉）

膣壁にジワリとしみ通る親友の子種汁に背徳感が煽られ、淫情の炎が燃え上がった。無意識のうちに豊臀が跳ねて、背徳の抽挿快感を貪ってしまう。

信司のペニスサイズに合わせて絞り込まれた膣壁が亀頭冠に掻き擦られて甘い痺れを発生させ、焦点を失って見開かれた目の前に、極彩色の火花を散らす。

「あっあっアッあんッ！　らめぇ……止められないっ！　気持ち……いいっ！」

背徳の快感に屈した少女は、膣括約筋をキュッ、キュンッと引き締めて親友の男根を締め付けながら、女体に備わった淫靡なメカニズム全開で扱き抜き、さらに強烈な愉悦を求める。

「うわっ！　いきなりそんな……締め付けながら動いたら、出るッ！　また、射精するううっ！」

亜神化しても相変わらずの早漏の少年は、苦しげな脈動とともに、二度目とは思えぬ大量のスペルマを咲妃のヴァギナへと注ぎ込む。

「しっ、信司ぃ！」
切なげな声を上げるボンデージボディが吊り上げられ、前のめりに倒された。
「こっ、今度は口で……フェラチオしてくれ！」
二度の子種汁を膣内に放ったばかりの早漏男根が、口元に突きつけられる。
「はう……あむ、んふ……ちゅぱ、ちゅぱ、ちゅぱ……んふうぅぅ……」
精液まみれの美貌をだらしなく蕩けさせた咲妃は、信司のペニスにフェラチオ奉仕させられながら、全身を触手男根に犯された。
「ンッ⁉　んむふうぅぅぅ〜ンッ！　そんらにいっぱい、入らないッ！　うぁ、やっ、くぁ！　あはぁぁぁぁ〜ンッ‼」
ヴァギナとアヌスに挿入を焦る亀頭が群がり、同時に数本が二穴に潜り込んでくる。
柔軟な媚粘膜は、苦悦に震えながらも、前後それぞれ三本ずつの男根を受け入れた。
「んほぉぉ！　おうぅぅっ、いっ、いいよぉ。締め付けでチンポが痺れて、きっ、きもち……よすぎるっ！　これがセックス！」
前後に動く咲妃の頭に手を添えた少年は、触手化した下半身全体を揺らしてイラマチオと同時二穴挿入の複合快感に酔いしれる。
「んぐぅ！　ゴホッ、ゴホッ……ンッ、じゅるるるっ……ずちゅるるるっ、んくんくんく……んふうぅ……じゅぱっ、じゅぱっ……」
はしたない吸い音を立てて、勃起を吸いしゃぶりながら、両手の指は肉茎に絡んで技巧

を尽くし、脇の下や胸の谷間まで駆使して、亜神化した少年のペニスに奉仕した。
貪欲なペニス触手は、足の裏や太腿、滑らかな背中、さらには全身を縛めたボンデージコスチュームの隙間にまで這いずる。
「もう……出そうッ！　もっとオマ〇コと……お尻に……いっ、挿れたいっ！」
「ひっ！　もっ、もう、無理ぃ……アヒッ！　くわぁぁ……んぐうぅぅ！」
中出しスペルマを噴きこぼすヴァギナと、卑猥に蠢くアヌスには合計六本の触手ペニスが強引に挿入され、交互に激しくストロークしていたが、限界状態の粘膜穴を拡張して、さらに一本ずつが追加された。
「フェラするの、止めちゃダメダよ！　ほら、咥えて……そこ、もっと舐めて！」
二穴多重挿入に苦悶する咲妃の頭を股間へと引き戻した信司は、スケベったらしく笑み崩れた顔を仰け反らせる。
咲妃は完全に忘我状態で肉体をくねらせていた。
強烈すぎる快感で意識は半ば消し飛び、マグマのように煮えたぎる欲情だけが肉体を駆動している。
そんな状態であってもなお、自分を犯しているのが信司であることだけは脳裏にしっかりと焼き付けられていて、背徳の快感を燃え立たせる火種として機能していた。
「ううぅっ、咲妃の口も、お尻も、アソコも……全部気持ちよくって、また……出そう……飲んで……ひぅ……くふうぅぅ……ッ！」

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行
株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル
TEL03-3555-3431（販売）／FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改さん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。
ⓒKILL TIME COMMUNICATION　Printed in Japan

http://ktcom.jp/

キルタイムコミュニケーション小説シリーズ

あなたはどのタイプ？

詳しくはKTCのオフィシャルサイトにて！ キルタイム 検索 Click

電子書籍版も各ダウンロードサイトにて続々配信中!!

あなたのキモチイイをお手伝い!

キルタイムのアダルトコミック誌!

二次元ドリームマガジン

業界唯一! エロラノベ&エロコミック満載!!

コミックアンリアル

魔法、催眠、性転換…不思議Hコミック誌!

コミックプリズム

フェチをテーマにツキ抜ける作品群!!

メガミクライシス

KTCといえば闘うヒロインアンソロ!

強く美しいヒロインが淫らに闘ちまくる アンソロジー!

詳しくはKTCのオフィシャルサイトにて! キルタイム 検索 Click

書店、書籍通販サイトなどで好評発売中!
※いずれも18歳未満の方は購入できません。

コミックス同人誌版も発売中!

全国の同人誌ショップ、キルタイムコミュニケーション通販にて取り扱っております。

KTC サイト http://ktcom.jp/

title:

ノブナガ繚乱!

lineup:

『明智の策略』 トキサナ

『ドSの流儀』 chaccu

『生徒会長前哨戦?』 天道まさえ

title:

発情期なアダム

lineup:

『いつもの学園生活』 天道まさえ

『天使の誘惑』 ウメ吉

『ELECTRIC LOVE』 空木次葉

電子書籍版もあります!

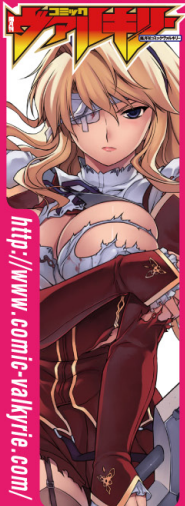
各種ダウンロードサイトにて発売中!

※18歳未満の方は購入できません。

キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

http://ktcom.jp/

◎雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ！
◎二次元ドリームマガジン・コミックアンリアルの**バックナンバー**も買えるよ！
◎**ジャンル別**で作品も選べて超便利！
◎二次元編集部の愉快な**Blog**も更新中！



http://www.comic-valkyrie.com/

KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌！　18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

http://www.cran-berry.com/

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出！　新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

http://www.mille-feuille.jp/

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム！「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場！

http://www.2d-dream.jp/

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める！携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ！